

AIによるドル円レート予測の衝撃

～AIは2024年ドル円相場をどのように予測するのか？～

ライフデザイン研究部 主席研究員/テクノロジーリサーチャー 柏村 祐

1.注目を集めるAIを用いたドル円レート予測

為替レートの代表であるドル円レートは、日米両国の経済状況や金融政策、国際情勢など様々な要因により変動し、企業業績や投資家心理に大きな影響を与えるため、市場参加者から常に注目を集めている。近年の円安については投資家の間でも意見が分かれており、アメリカ経済の力強い回復や金利上昇期待を背景にさらなる円安を予想する投資家がいる一方で、日本経済の緩やかな回復や国際情勢の不確実性から円高局面への転換を予想する声もある。

そのようななか、人工知能（AI）を用いたドル円レート予測手法が注目を集めている。AIは膨大な過去データや経済指標、ニュース情報などを学習し、それらの複雑な相関関係を見出すことで予測精度を高めている。また、AIによる予測は、人間の感情に左右されることなく客観的かつ迅速に行われるため、市場参加者の意思決定をサポートする有力なツールとして期待が高まっている。一方で、その仕組みは非常に複雑であるため、予測結果の解釈や活用については確立されていない部分も多い。さらに、AIによる予測は過去のデータにもとづいているため、予期せぬイベントや市場の変化に対応することが難しいという指摘もある。

本稿では、ドル円レートの予測におけるAI活用の現状と可能性について論じるとともに、その限界や課題についても言及し、活用にあたっての留意点を述べる。

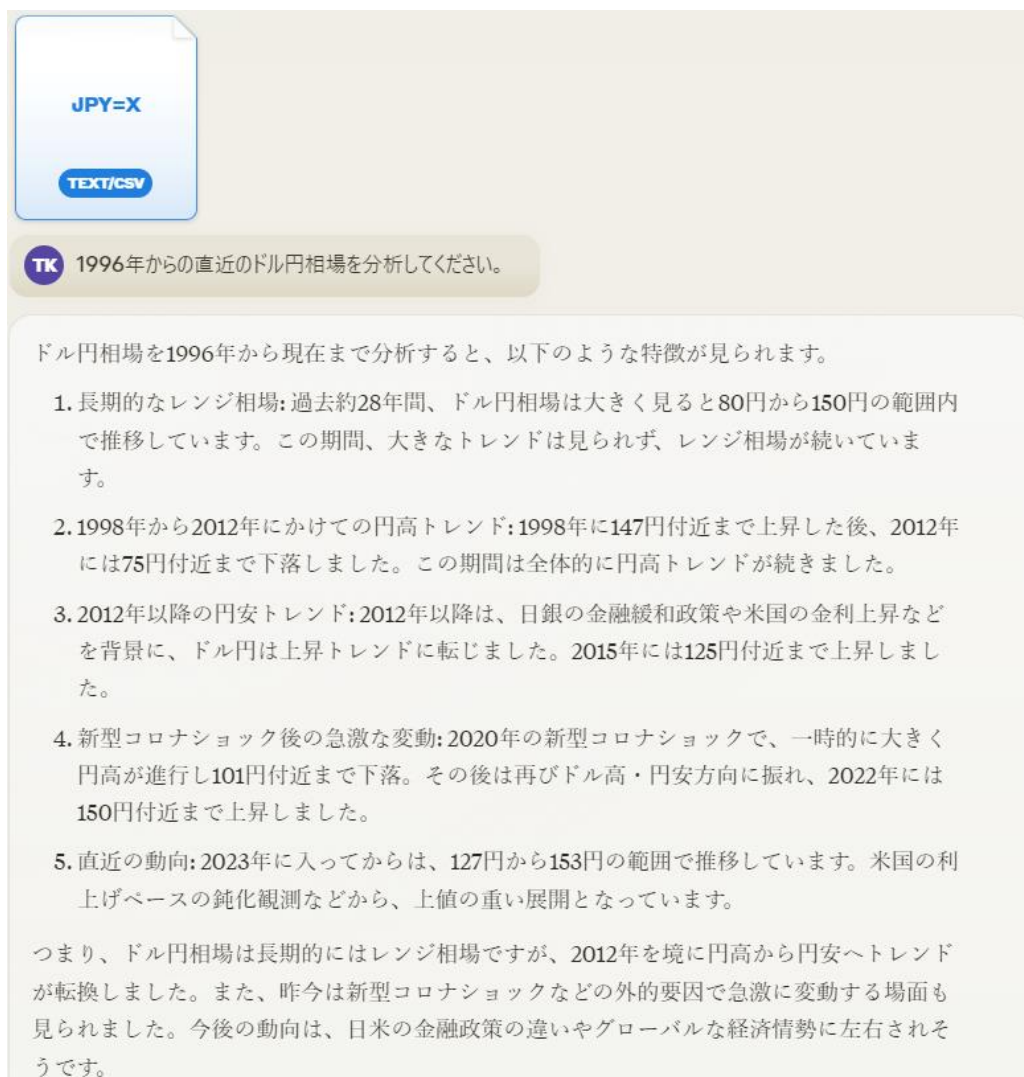
2.AIによるドル円レート予測の実態

AIを活用したドル円レート予測は、「過去のレートの分析」と「楽観シナリオ、悲観シナリオにもとづくレート予測」の2つの工程に大別される。

まず、「過去のレートの分析」工程で、ドル円レートの1996年以降のデータをAIに読み込ませ「1996年からの直近のドル円レートを分析してください」と指示したところ、AIはその週次データを解析したうえで、「長期的なレンジ相場」「1998年から2012年にかけての円高トレンド」「2012年以降の円安トレンド」「新型コロナショック後の急激な変動」「直近の動向」という5つの特徴について、以下の通り洞察した（図表1）。すなわち、「過去28年間、ドル円レートは80円から150円のレンジ内で推移しているが、1998年から2012年にかけての円高トレンドに続き、2012年以降は日銀の金融緩和政策や米国の金利上昇を背景に円安トレンドに転じた。2020年の新型コロナショックでは一時的に円高が進行したが、その後はドル高・円安方向

に振れた。2023年に入ってからは127円から153円の範囲で推移し、米国の利上げペース鈍化観測から上値の重い展開となっている。今後の動向は日米の金融政策の違いやグローバルな経済情勢に左右される」というものである。

図表1 AIが過去のドル円レートを読みこみ洞察した結果



資料: Claude3 より筆者作成

次に、今後の楽観シナリオにもとづくドル円レートを予測するため、はじめにAIを活用して楽観シナリオの作成を行った（図表2）。

図表2 AIが作成した2024年の楽観シナリオ

2024年は、世界的な政治、経済、地政学の面で楽観的なシナリオが展開される年となります。以下にその概要を示します。

政治の安定と国際協力の強化

2024年は、世界各国が政治的な安定を達成し、国際協力を強化する年となります。米国では、政治的分断が緩和し、民主党と共和党が国益を優先し、共通の課題に対して協力する姿勢を見せます。これにより、国内政策の実行がスムーズに進み、経済成長を支える基盤が強化されます。

欧州では、EU加盟国間の結束が強まり、経済統合の進展と共に、気候変動対策やデジタル化推進に向けた共同の取り組みが加速します。また、英国とEUの関係も改善し、ブレグジット後の新たな協力関係が構築されます。

アジアでは、中国と台湾の関係が緊張緩和に向かい、平和的な対話が進行します。また、北朝鮮の非核化に向けた国際的な取り組みが進展し、地域の安全保障環境が改善されます。

経済成長の加速

2024年は、世界経済が回復し、多くの国で経済成長が加速します。米国では、インフラ投資や技術革新により、新たな成長の機会が生まれます。欧州では、グリーン経済への移行が進み、持続可能な成長が実現します。

アジアでは、中国が経済構造の転換を進め、内需拡大に成功します。インドや東南アジア諸国も、デジタル化や教育投資の拡大により、高い成長を維持します。

地政学的リスクの低減

2024年は、地政学的リスクが大幅に低減します。米中関係は、貿易や技術分野での競争は続きながらも、気候変動やパンデミック対策などのグローバルな課題に対しては協力する姿勢を強めます。中東では、和平プロセスが進展し、地域の安定が進む一方、アフリカでは経済発展と政治的安定が進み、新興市場としての魅力が高まります。

このように、2024年は、政治的な安定、経済成長の加速、地政学的リスクの低減という3つの楽観的なシナリオが同時に進行する年となり、世界はより良い方向へと進むことが期待されます。

資料: perplexity より筆者作成

このAIが作成した2024年度の世界の地政学、経済、政治動向に関する楽観シナリオを改めて読み込ませたうえで、「楽観シナリオにもとづき2024年6月末、9月末、12月末のドル円レートを予測してください」と指示したところ、AIは、前提条件として政治の安定と国際協力の強化、経済成長の加速、地政学的リスクの低減が進むことという3点を挙げたうえで、2024年6月末130円、2024年9月末125円、

2024年12月末120円という予測を算出した（図表3）。

図表3 AIが楽観シナリオにもとづきドル円レートを予測した結果

2024年の楽観シナリオに基づいて、ドル円の価格を以下のように予測します。

1. 2024年6月末：130円 世界的に政治的安定と国際協力の強化が進む中、リスク選好の改善から円買い・ドル売りが優勢となります。米国での経済成長を背景に金利上昇圧力は残るものの、日本でもインフレ率の上昇を受けて金融政策の修正観測が高まります。これにより日米金利差は縮小に向かい、ドル円は130円まで下落すると予想されます。
2. 2024年9月末：125円 世界経済の回復と地政学リスクの低減を受けて、グローバルな投資環境が改善します。日本経済も輸出の回復や内需拡大により力強さを増し、日銀は金融政策の正常化に向けた具体的な議論を開始すると見込まれます。これによりドル円は一段と下落し、125円まで下落すると予測されます。
3. 2024年12月末：120円 世界的な経済成長が加速する中、日本企業の業績改善と株式市場の活況を背景に、円資産の魅力が高まります。一方、米国では経済成長の安定を受けて利上げペースが緩やかになるとの見方が広がります。これにより日米金利差のさらなる縮小が進み、ドル円は年末に120円まで下落すると予想されます。

ただし、これらはあくまで楽観シナリオに基づく予測であり、実際の為替相場は様々な要因の影響を受けて変動します。世界経済の回復ペースや各国の政策対応、地政学リスクの動向などによっては、予測とは異なる展開となる可能性もあることに留意が必要です。特に、楽観シナリオが想定するような世界的な協調体制の構築には、各国の利害調整や合意形成のハードルもあり、慎重な見方も必要でしょう。

資料：Claude3 より筆者作成

次いで今後の悲観シナリオにもとづくドル円価格予測を行うため、はじめにAIを活用して悲観シナリオの作成を行った（図表4）。

図表4 AIが作成した2024年の悲観シナリオ

2024年の世界的な政治、経済、地政学を含めた悲観シナリオは、以下のように展開する可能性があります。

政治的緊張の高まり

- **米中関係の悪化:** 米国と中国の間で貿易戦争が再燃し、高い関税が再び導入される。この結果、世界経済に大きな影響を及ぼし、多国間の協力体制が崩壊する。
- **中東地域の不安定化:** イスラエルとハマスの衝突がエスカレートし、周辺国が巻き込まれる大規模な軍事衝突に発展する。これにより、石油供給に大きな不安定性が生じ、世界経済に打撃を与える。
- **欧州の政治不安:** 極右・極左政党の台頭により、欧州連合(EU)内での分断が深まり、経済統合の進展が停滞する。特に、ポピュリズムの影響で移民政策や経済政策において内部対立が激化する。

経済的不安定性

- **世界経済の減速:** 米中貿易戦争の再燃、中東地域の緊張高まり、および欧州の政治不安が相まって、世界経済の成長が大幅に減速する。国際貿易の縮小と投資の冷え込みが見られる。
- **インフレと失業の増加:** 経済の減速と並行して、多くの国でインフレ率が上昇し、生活コストが高騰する。同時に、企業の倒産や投資の減少により、失業率が上昇する。
- **新興国の経済危機:** 米ドルの強さと外国からの資金流出により、多くの新興国が経済危機に直面する。特に、高い外債を抱える国々で通貨危機が発生し、国際金融市場に混乱をもたらす。

地政学的リスクの増大

- **サイバー攻撃と情報戦:** 国家間の緊張が高まる中で、サイバー攻撃が頻発し、重要インフラが標的になる。また、偽情報の拡散により、国内外での政治的混乱が加速する。
- **気候変動による影響の悪化:** 気候変動対策の遅れにより、自然災害の頻度と規模が増大し、食料安全保障や水資源へのアクセスが悪化する。これにより、地政学的緊張が一層高まる。

このような悲観シナリオが現実化すると、世界は経済的、政治的、社会的に大きな混乱に見舞われることとなります。各国は協力してこれらのリスクに対処し、より持続可能な未来に向けた取り組みを加速させる必要があります。

資料: perplexity より筆者作成

このAIが作成した2024年度の世界の地政学、経済、政治動向に関する悲観シナリオを改めて読み込ませたうえで、「悲観シナリオにもとづき024年6月末、9月末、12月末のドル円レートを予測してください」と指示したところ、AIは、前提条件として世界的に政治的緊張が高まること、経済的不安定性が増大すること、地政学的リスクが増大することという3点を挙げたうえで、2024年6月末185円、2024年9月末210円、2024年12月末230円という予測を算出した。これらの予測値は、世界経

済の先行き不透明感、日米金利差の拡大、世界的なリスク回避、日本経済の悪化、地政学的リスクの高まりといった要因が組み合わさることで円売り・ドル買いが進むという見通しが背景にある（図表 5）。

図表 5 AI が悲観シナリオにもとづきドル円レートを予測する様子

2024年の悲観シナリオに基づいて、ドル円の価格を以下のように予測します。

1. 2024年6月末：185円 米中貿易戦争の再燃と中東地域の不安定化により、世界経済の先行き不透明感が急速に高まります。原油価格の高騰を受けて日本のインフレ率が上昇する一方、日銀は金融緩和姿勢を維持せざるを得ない状況となります。米国では政治的混乱や経済的不確実性から金融引き締めが長期化するとの見方が広がり、日米金利差の拡大を背景にドル円は185円まで上昇すると予想されます。
2. 2024年9月末：210円 世界経済の減速が鮮明になり、多くの国でインフレと失業率の上昇が深刻化します。欧州の政治不安や新興国の経済危機が金融市場の混乱に拍車をかける中、世界的なリスク回避の動きが加速し、円売り・ドル買いが急速に進むことが予想されます。日本経済も輸出の急減と国内需要の低迷に直面し、円安トレンドが加速します。これによりドル円は210円まで上昇すると予測されます。
3. 2024年12月末：230円 世界的な景気後退が深刻化する中、各国の政策対応の限界が明らかになります。サイバー攻撃や気候変動による影響の悪化が地政学的リスクを一段と高め、世界経済の不確実性が極度に高まります。日本経済は深刻なスタグフレーションに陥る一方、米国では金融引き締めの加速が避けられない状況となり、ドル円は年末に230円まで上昇すると予想されます。

ただし、これらはあくまで悲観シナリオに基づく予測であり、実際の為替相場は様々な要因の影響を受けて変動します。各国の政策対応や国際協調の動向、予期せぬイベントの発生などによっては、予測とは異なる展開となる可能性もあります。特に、世界的な危機が極度に深刻化した場合、各国が協調して大規模な金融緩和や財政出動を行うことで、状況が改善する可能性もあることに留意が必要です。

資料: Claude より筆者作成

以上のように、AI は過去データの分析による予測と楽観・悲観シナリオにもとづく予測の2つのアプローチを組み合わせ、ドル円レートを予測していることがわかる。

過去データの分析を行うことで、ドル円レートの変動パターンや傾向を把握し、楽観・悲観シナリオにもとづく予測では、将来起こりうる事象を想定し、それがドル円レートに与える影響を検討する。この2つのアプローチを組み合わせることで、過去の傾向と将来の可能性を総合的に考慮した予測が可能となる。

3.今後の可能性

AIによるドル円レート予測は、その精度や利便性から今後さらなる発展が期待される。特に、機械学習技術の進化により、より複雑で非線形な関係性を捉えることが可能になってきており、今後も予測精度の向上が見込まれる。また、自然言語処理技術の進化により、ニュースや経済レポートなどのテキストデータから市場センチメントを読み取ることも可能になりつつある。これにより、AIはさらに総合的な判断を下せるようになるだろう。

さらに、リアルタイムデータの取り込みや高速処理により、AIは人間よりも迅速に判断・予測することができる。急速に変化する市場環境において、素早い意思決定を可能にすることに加え、人間の感情や先入観に左右されないことがないため、AIはより客観的で公平な判断ができる。これらの利点を活かすことで、AIによるドル円レート予測は、投資家の意思決定をサポートする強力なツールとなり得る。

一方で、AIによる予測には限界があることも認識する必要がある。前述の通り、その予測は過去のデータにもとづいているため、予期せぬイベントや市場の突発的・構造的な変化に対応することが難しい。たとえば、2020年の新型コロナショックのような事態が発生した場合、AIによる予測はその影響を十分に織り込むことができない可能性がある。また、AIによる予測モデルの多くは、その内部構造や予測プロセスがブラックボックス化しており、予測の根拠や理由が明確でないことがある。したがって、AIによる予測を過信することなく、その限界を十分に理解したうえで活用することが重要である。

AIによる為替レート予測は結果の解釈や活用方法に確立されていない部分が多く、引き続き研究と議論を重ねていく必要はあるが、従来の手法を補完し投資家の判断力を高める有力なツールとして、今後さらなる進化と普及が見込まれるところである。